

1 本年度の重点教育目標

豊かな心をもち みんなと ともに 歩む子

2 本年度の取組の重点

- 自ら課題を見つけて挑戦し、自分の考えをもって、表現しながら「わかる」「できる」までねばり強く取り組む子どもの育成
- 正しいこと、美しいものに素直に感動し、人を大切にし、自分の良さを伸ばす子どもの育成
- 自分から体を動かし、運動の楽しさや健康の大切さを実感できる子どもの育成

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
確かな学力を育む教育の推進	学習習慣及び学習規律の確立による基礎・基本の習得	a	教科担任制や複数指導体制により高まったと考える。家庭学習協調週間の設定や家庭学習ノートの掲示により学習習慣も高まりつつある。指導体制の工夫をさらに充実させ、パソコンの活用で意欲化と基礎・基本の定着の高まりをめざす。	A	A	・指導体制の工夫や家庭学習の取組が効果を上げていると思う。 ・担任だけで家庭学習をすべてチェックするのは難しいので様々な学習ツールなどを利用できるようになるとよいと思う。
	主体的・対話的に学習に取り組む授業形態・学習過程の工夫	b	コロナ禍での学習活動への制限があった。児童が主体的に授業に向かい対話を通して学習を深めるよう、パソコンの活用も含め、個に応じたより効果的な指導方法の研究や実践を進める。	A	A	・コロナ禍での学習活動の難しさを感じる。 ・各家庭でもパソコンの利用のしかたに協力できるとよいと思う。
	読書活動の充実	b	蔵書が充実し、読み聞かせ等の読書の楽しさを感じさせる取組や授業での活用も積極的になされた。朝読書、家読等、読書習慣の高揚と意欲化を図る「読書まつり」の取組の工夫を図る。	A	B	・「本を読むこと」は子供の成長にとっても重要なこと。これからも積極的に取り組んでほしい。 ・子どもたちの実態を把握しながら工夫・改善を図り更に充実させてほしい。
豊かな心を育む教育の推進	豊かな心と規範意識を育む指導の充実	b	コロナ禍により異学年での交流は不十分。多様性を認め合う心情等の育成を高めるため他との望ましい交流活動を増やしていきたい。委員会活動も制限があった。様々な活動を通して自己肯定感や自己有用感の一層の醸成とともに規範意識の向上をめざす指導の充実を図る。あいさつの励行にも取り組んだが委員会活動等の充実等によりさらに向上するよう取組の工夫を図る。	A	A	・あいさつも大きな声を出すことに抵抗がある現状なので1日も早いコロナの終息を願っている。

	望ましい人間関係を高め、集団生活の向上を図る取組の充実	b	いじめ防止基本方針を基に取組を進めてきた。深刻ないじめが多発している状況ではないが、友達を大切にすることが育っていないケースも散見される。小集団活動の活性化や積極的な生徒指導、人権教室等により望ましい人間関係を高める指導の充実と工夫を図る。	A	A	・人とのふれあいが制限される中、他者への思いやりを実践指導していくのは大変なことだと思う。 ・子供、教職員、保護者、地域等でのきめ細かい取組と日常からの迅速、連携した対応が必要である。
	道徳科の授業及び体験活動の充実	b	道徳科の教材を児童が自分事として捉えられるよう授業の工夫を図っている。体験活動はコロナ禍で不十分だった。今後も学習したことを実感できる授業や体験活動の一層の充実を図る。	A	A	
健やかな体を育む教育の推進	児童が進んで運動する体育科授業の展開	b	運動への興味関心や技能を高める指導の工夫を図ってきた。今後も個々に適切なめあての設定や学習の振り返りを行っていくとともに運動への意欲化を図る	A	A	・体育の授業だけでなく、放課後にコミュニティスクールを利用して体を動かす活動があってもよいと思う。
	教科外体育の充実及び体育的行事の充実	a	全国体力テストの結果は、体力合計点で5年男子は全国平均以上、女子は全国平均と同程度である。自己の体力の現状を知り、適切な目標設定により意欲を持って体力作りに励む取組の工夫と充実を図る。	A	A	
	保健指導・食育指導の充実	b	各種調査及び生活リズムチェックによると、「朝ごはんを食べない子」「メディア利用の時間が長い子」の割合が全国比で多く、健康面、情意面、学力面への影響があると考え。児童への指導の充実とともに家庭啓発の充実を図る。コロナ禍における予防や衛生習慣の指導の充実を継続する。	A	A	・家庭での躰は大きいと思う。スマホやタブレット等の使用制限もうまくできていない家庭があると聞いているので、家庭啓発はとても大切と考える。
危機管理体制の確立	通学路安全マップ、危機管理マニュアルの確認と更新	b	通学路の状況や自然災害や不審者対応等のマニュアルの再点検をしたものの、安全マップの更新は実現しなかった。更新の方法等も含め検討する。	A	A	・PTAの方にも協力をしてもらっていて大変ありがたい。 ・今後もいろいろな方法で連携を図っていけるとよい。
	関係機関と連携した交通安全指導・不審者対応・ネットトラブル防止の指導の充実	a	安心メールによる迅速・適切な情報提供に今後も努める。ネットの適切な利用については一層の指導と保護者にも外部講師の講話を聴く機会を設け、家庭への啓発の一層の充実を図る。	A	A	・多方面の連携と指導の充実が見られる。 ・安心メールの利用もとてもありがたい。
家庭・地域との連携・協働の推進	学校運営協議会、地域素材・人材の有効活用	b	児童の見守り活動は地域の方々の献身的な協力体制により維持された。今後も同様に維持していきたい。コロナ禍におい	A	A	・コロナ禍でいろいろな制限、交流の難しさを感じる。今後も協力していきたい。

			ては地域の教育力を日常の授業や体験活動等では限定的にしか活用できなかった。活用場面を拡大し可能な限り活用を図っていく。			
	保護者等との密な連携	b	授業参観は、感染状況が収まった12月に一度、懇談は1学期に体育館を利用して1度にとどまった。家庭と学校の指導方針の共通理解を適切に図り、密接な連絡体制の充実を一層深めるため、感染の縮小期を狙った開催時期の設定や参観時間の限定、オンライン化など、方法の工夫を図っての実施の実現を図る。あわせて学童保育に通所している児童も多いので連携を深める。	A	A	・オンライン化に様々なハードルがありそうだが、実現できれば素晴らしいと思う。
学校間の連携・接続	近隣校・小中・異校種との適切な連携と接続	b	近隣校による情報共有・交流を深めてきた。小中の連携による中1ギャップ解消の取組はコロナ禍により実現できなかった。体験入学や中学校教員の乗り入れ授業等を実現させたい。近隣の幼稚園との連携として感染が収まっている時期にタイミング良く生活科の交流が実現した。小1プロブレム解消のため連携・交流の取組の充実を図る。	A	A	・乗り入れ授業は児童にも刺激があり、よい緊張感をもてると思うので実施してほしい。
業務改善の取組の推進	子どもとのふれあいの時間を確保する業務改善の取組（勤務時間管理、校務運営システムの活用、諸会議の時間縮減、定時退勤日の設定等）の推進	b	特定の教員に負担のない組織的な協働体制を進めた。学級の状況や初任者において勤務時間が長くなった。新たな電話対応時間の取組などタイムマネジメントが可能な取組を実行した。全体的には昨年度より勤務時間は縮減している。定期的に勤務状況を業務改善チームにより点検し改善策を検討・実践を推進する。	A	A	・業務改善に向けてチーム、学校全体で改善、その推進に向けて努力されていると思う。先生方の工夫した取組や努力には頭が下がります。

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。